

第6学年〇組 家庭科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1 題材名 「生活に役立つ物をつくろう」

2 指導観

- 衣生活におけるわたしたちを取り巻く環境は、高価な物から安価な物まで多種多様にあり、選択の幅も広がっている。安価で手に入るということもあり「いいものを長く」という価値観が薄れつつある。また、ミシンなどの裁縫道具が家庭に揃っていないということもあり、手作りで製作したり、繕ったりすることが減っているということも事実である。そこで、布製品の構造や機能、用途などを理解し、技術を生活の中で生かしていこうとする態度を育てることが必要と考える。

本題材は学習指導要領の内容(3)『生活に役立つものを製作して活用できるようにする』を受けて構成されている。布を用いて生活に役立つ簡単なものを作る計画を立て、製作することを通して、目的に応じた手縫いができたり、ミシンで直線縫いができたりする基礎的な技能や知識を身に付け、日常生活で活用することができると思われる。

- 児童はこれまでに、5年生で題材「ぬって！使って！楽しい生活」を通して、裁縫道具や手縫い、ミシンの各部の名称、使い方、そして直線縫いについて学習している。また、5年生の題材「わたしにできることは」の[針と糸を使ってみよう]の学習で玉結び・玉どめ・なみ縫い・返し縫い・かがり縫いといった手縫いの基礎を学んだ。そして、習得した手縫いの技能を生かしてエプロン作りに取り組んでいる。

事前調査を行ったところ、 \quad %の児童が「家庭科の学習が好き」と回答している。また、「裁縫は好きである」と回答している児童は約 \quad %である。裁縫が好きな理由として、完成したときうれしい、縫うことが好き、自分で作ると大切にしたいなどが挙げられた。裁縫がすきでないと答えた児童の理由としては、やり方がわからないから、めんどうだから、不器用だからなどが挙げられた。また、手縫いでは \quad %ミシンでは \quad %の児童が、学習以外で製作したことがないと答えている。事前調査から身につけた技能を生かして、衣生活をよりよくしていこうとする意識は低く、児童にとって、実際の生活の中でボタン付けや基本縫いなど学習した内容を生かす機会は、非常に少ない。このように意識の低さや経験不足から、技能の定着は不十分であるということが実態として考えられる。

- 指導にあたっては、「生活に役立つ」という視点から身の回りの布製品をもう一度見直し、生活をよりよくしようとする意識を高めさせる。そして、手縫いとミシンの直線縫いという基本的な縫い方の技能と知識の定着を促すようにし、生活の中で生かすように取り組ませていきたい。

そこでまず、事前にとっておいた裁縫に関するアンケートを使って、普段の生活の中で裁縫をする機会が少ないことに気づかせ、課題をつかませる。そして、家庭生活や学校生活の中での布製品を見直し活動を行い、その布製品の種類や機能、目的、構造について調べ、用途に応じて工夫されていることに気付かせる。そして、自分の製作計画を立て、計画カードに書かせる。ここでは、布製品の観察を生かして、間違えやすいところや難しいところを考えさせ、生活に役立つものの製作へとつなげる。製作では、つまずきやすい児童のためにポイントをヒントカードや見本で提示したり、班で活動させたりして、誰もが自信や満足感を

感じられるようにしたいと考えている。そして最後に、製作したものの発表会をする。製作したものの工夫をアピールカードに書かせ展示させる。また、自分で製作したものの反省や友達の作品から得たことをいかして、家庭での実践につなげていけるようにする。

3 目標

- 生活に役立つ物の製作に関心を持ち、ミシンによる直線縫いを適所に用いて、製作ができる。
- 自分の作りたいものについて、材料の特徴を生かして製作計画を立て、手縫いやミシン縫いの部分を工夫して製作する。
- 手縫いやミシンで直線縫いができ、製作用具を正しく安全に取り扱うことができる。
- 布の種類、材質、特徴やミシンの正しい使い方を理解することができる。

4 指導計画 (全9時間)

関：関心・意欲・態度 創：創意・工夫 技：生活の技能 知：知識・理解

段階	配時	学習活動と主な学習内容	手だて	評価規準
気付く	① 課外	1 身近な生活で使われている布製品を調べ学習の見通しをもつ。 ○ 身近な布製品から縫い方の工夫、用途にあった作りなどを調べる。 ・縫いしろ・ゆとり・縫い方 ・布の種類 ・かざり ○ 家庭にある布製品から調べる。	○ 家庭生活を振り返る視点が分かる学習プリントを用意し、事前に調べ活動をさせておく。	関：身の回りにはたくさんさんの布製品があり、生活に密着していることに気付いている。 (学習プリント分析) 知：布製品を観察し、その機能性や工夫に気付くことができる。 (学習プリント分析)
見通す	②	2 基本的な縫い方の総復習をする。 ・糸通し・玉どめ・玉結び ・なみ縫い・ミシン縫い	○ これまでに製作したエプロンから技能についてまとめていくことで計画に活かせるようにする。 ○ 技能をおさらいできるように拡大見本や映像を用意しておく。	知：縫い方や、裁縫道具の使い方、布の種類や特性を理解している。 (テスト・様相チェック) 技：裁縫道具の安全な使い方ができる。 (様相チェック)
表現する	⑤	3 製作計画を立て、製作実習をする。 (1) ナップザック作りの計画を立てる。 ・目的に応じた縫い方 ・簡単な製作手順 ・間違えやすいところや難しいところを考え製作計画書に書く。	○ 製作手順やそれに応じた準備物を段階的に理解させるため、製作計画書を用意する。 ○ 目的に応じた縫い方や間違えやすいところ、難しいところを考えさせ、製作のポイントとして製作計画書に書かせる。	技：出来上がりの見通しをもって目的に応じた縫い方や簡単な製作手順などの計画を立てられる。 (製作計画書分析) 技：能率を考え、用具を安全に使って製作する。 (様相チェック)

		<p>(2) 計画に基づいて製作活動を行う。</p> <p>① しるしをつける。</p> <p>② 両わきにまち針をうち、両わきをぬう。</p> <p>③ 口を二つ折りし、口をぬう。</p> <p>④ ひもを通す。</p>	<p>○ 出来上がりのイメージをもつことができるように実物見本、段階見本、製作手順がわかる写真を用意する。</p> <p>○ 無駄なく作業ができるようミシンコーナーと手縫いコーナーを設ける。</p>	<p>創：製作で難しいところや工夫するところを考え計画を立てている。〈製作計画書分析〉</p> <p>技：計画通りに方法を選択しながら製作している。〈様相チェック〉</p>
活用する	①	<p>4 発表交流会をしよう</p> <p>(1) 作品カードを記入し、自分の作った作品をみんなに紹介する。</p> <p>(2) 学習を振り返り、これからの生活に生かすことを考える。</p> <p>5 ナップザックを使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三学期の「伝えよう！ありがとうの気持ち」の被服製作につなげる。 	<p>○ 製作で工夫したところやがんばったところを中心に作品カードに書かせ、発表させる。</p> <p>○ 製作をしてわかったことや友だちの発表を聞いて気付いたことをまとめさせる。</p> <p>○ 3学期の「伝えよう！ありがとうの気持ち」の製作学習につなげる。</p>	<p>創：友達の商品の思いや製作の工夫に触れながらいいところを見つけることができる。</p> <p>〈学習プリント分析〉</p>

5 本時 [5/9] 平成22年 月 日 () 校時 家庭科室にて

(1) 本時の指導観

児童は、ナップザック作りの計画を立て、手縫いをする箇所とミシン縫いをする箇所を考えたり、製作で間違えそうな箇所や難しそうな箇所を考えたりして、製作の見通しをもちながら計画カードをつくっている。また、前時では計画カードに基づいて製作活動①「しるしをつける」を行っている。

そこで本時は計画カードに基づいて製作活動②の「両わきにまち針をうち、両わきをぬう」を行う。製作活動では、班活動を仕組むことで友達からアドバイスをもらったり、見本やヒントカードを観察することにより製作で間違えやすい所や難しい所を意識したりしながら進めて。最後に、班で計画を意識しながら製作できたかを発表させ、次時の確認をする。

このように、友達からアドバイスをもらったり、見本やヒントカードを観察したりしながら製作活動を行うことは、今後の生活の中でも生かしていく価値がある。

(2) 主眼 見本やヒントカードと自分の作品を見比べて、両わきを正しく縫うことができる。

- (3) 準備 ①計画カード ②実寸見本・縮小見本 ③ヒントカード
④基本的縫い方の拡大

(4) 展開 [5/10]

過程	学習活動と内容	手だて (○) と評価 (◇)	形態	配時
つかむ	<p>1. 前時までの振り返りをし、本時の活動を知る。</p> <p>製作活動②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両わきにまち針をうつ。 ・両わきを縫う。 <p>2. めあての確認を行う。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ポイントに気をつけて、両わきを正しく縫おう。</p> </div>	<p>○ 計画カードを元にするしを付けたことを振り返り、今日の課題が製作活動②の「両わきにまち針をうち、両わきをぬう」であることを告げる。</p> <p>○ 本時のめあてを確認する。</p>	一斉	5
見通す	<p>3. 今日の製作工程を知り、作業のポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中表 ・まち針のうち方 ・平ひもの付け方 ・口あき止まりまでの縫い方 ・丈夫に縫う方法 (二度縫い)。 	<p>○ ヒントカードを示し、布の合わせ方・平ひもの付け方・縫い方を確認させる。</p> <p>○ 計画カードの図を使って、班で縫い方を再確認させる。</p>	一斉 班	5
わくめる	<p>4. 計画を意識して製作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両わき縫い ・ミシン縫い 	<p>○ 机間巡視をし、つまずいている子どもには見本やヒントカードを見るようアドバイスを行う。</p> <p>○ 班内で正しく縫えているかチェックさせる。</p> <p>◇ 平ひものを正しく付け、口あき止まりまで正しく縫うことができている。(活動チェック・作品の相互評価)</p>	個 班	30
まとめる	<p>5. 学習のまとめをし、次時の確認をする。</p>	<p>○ 今日の学習のまとめをする。</p> <p>○ 計画カードで次時の見通しをもたせる。</p>	一斉	5